

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について



令和4年4月19日（火）に実施した「令和4年度全国学力・学習状況調査」について、牛久市の児童生徒の傾向をお知らせします。

全国学力・学習状況調査とは？

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するために実施されています。それにより、教育施策の成果と課題を検証して改善を図ったり、学校における教育指導の充実や児童生徒の学習状況の改善に役立てたりします。なお、「身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能」や、「知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立てて実践し評価・改善する力等」を問う出題内容となっています。

○調査の対象

小学校第6学年 及び 中学校第3学年（義務教育学校9年生）

○調査内容

①教科に関する調査 小学校：国語、算数、理科
中学校：国語、数学、理科

②質問紙調査 学習に関する関心・意欲・態度や生活習慣、学習習慣などに関する内容。なお、この調査は学力の一部をはかるもので、学力のすべてをはかるものではありません。



結果の概要

3教科のうち、小学校算数を除き

全国、茨城県の平均正答率を **上回りました。**

◇小学校国語・中学校国語

小学校は5つ、中学校は6つの内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項（中学校のみ）」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれの内容から出題がありました。小学校・中学校いずれも全国や県と比べて全体の平均正答率は高くなっています。

◇小学校算数・中学校数学

4つの領域「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」（中学校では「数と式」「図形」「関数」「データの活用」）からの出題があり、小学校の「数と計算」、「データの活用」を除き、いずれも平均正答率は全国や県と比べ高くなっています。

◇小学校理科・中学校理科

4つの領域「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」からの出題があり、小中学校いずれも全国や県と比べて平均正答率が高くなっています。





小学校 国語

内容	成果が見られた内容（◇）と課題が見られた内容（◆）
言葉の特徴や使い方	◇話し言葉と書き言葉の違いを理解することについては、およそ9割の児童が聞き手に正しく理解してもらうための工夫に気づくことができしており、大変満足できる状況です。 ◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについては、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けることも含めて、努力を要する状況です。
我が国の言語文化に関する事項	◇漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことについては、7割以上の児童が正答しているものの、相手の読みやすさを考えて、行の中心に文字の中心をそろえて書く意識をさらに高める努力が必要な状況です。
話すこと・聞くこと	◇必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえることについては、平均正答率が8割を超えており、満足できる状況です。 ◆互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることについては、国や県の平均を大きく上回っているものの、努力を要する状況です。
書くこと	◆文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることについては、県の平均正答率を超えてはいるものの、無解答率が高く、努力を要する状況です。
読むこと	◇登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることについては、7割以上の児童が複数の描写に着目しながら読むことができしており、おおむね満足できる状況です。 ◇人物像や物語の全体像を具体的に捉えて書くことについても、およそ7割の児童が「どのように描かれているか」という表現に着目して読み、具体的に想像しながら文章で表現することができしており、おおむね満足できる状況です。



中学校 国語

内容	成果が見られた内容（◇）と課題が見られた内容（◆）
言葉の特徴や使い方	◇事象や行為、心情を表す語句について理解することについては、8割以上の生徒が正しく選択できており、満足できる状況です。 ◆文脈に即して漢字を正しく書くことについては、およそ8割の生徒が正答していますが、日頃から意識して活用できるようにするなどの工夫が必要です。
情報の扱い方に関する事項	◆自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことについては、国や県の平均正答率を大きく上回っているものの、十分とはいえず、努力を要する状況です。
我が国の言語文化に関する事項	◇漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方については、8割以上の生徒が適当なものを選択できており、満足できる状況です。 ◇漢字の行書の読みやすい書き方について理解することについては、約9割の生徒が正答しており、満足できる状況です。
話すこと・聞くこと	◇論理の展開などに注意して聞くことについては、国や県の平均を大きく上回り、7割以上の生徒が情報同士の結びつきに注意しながら聞く力を身に付けることができました。無回答率も非常に低く、おおむね満足できる状況です。
書くこと	◆自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことについては、国の平均正答率を大きく上回っているものの、努力が必要です。
読むこと	◇場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することについては、7割以上の生徒が文章の展開に注意しながら、叙述に即して文章の内容を把握できており、おおむね満足できる状況です。

小学校 算数

領域	成果が見られた内容（◇）と課題が見られた内容（◆）
数と計算	◇被除数に空位のある整数の乗法の計算をすることについては、平均正答率が9割を超えており、十分満足できる状況です。 ◆示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することについては、国や県の平均正答率は超えているものの、さらに努力を要する状況です。
図形	◇図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解することについては、平均正答率が8割を超えており、満足できる状況です。 ◆正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することについては、国や県の平均正答率は超えているものの、さらに努力を要する状況です。
変化と関係	◇百分率で表された割合を分数で表すことについては、約7割の児童が理解しており、おおむね満足できる状況です。 ◆示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することについては、国や県の平均正答率は超えてはいるものの、さらに努力を要する状況です。
データの活用	◇分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することについては約7割児童が理解しており、おおむね満足できる状況です。 ◆目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることについては、国や県の平均正答を下回っていることから、さらに努力を要する状況です。

中学校 数学

領域	成果が見られた内容（◇）と課題が見られた内容（◆）
数と式	◇問題場面における考察の対象を明確にとらえることについては、平均正答率が8割近くに達しており、おおむね満足できる状況です。 ◆自然数を素数の積で表すことについては、県や国の正答率を下回っていることから、さらに努力を要する状況です。
図形	◇証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解することについては、平均正答率が8割近くに達しており、おおむね満足できる状況です。 ◆筋道立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することについては、国や県の平均正答率を超えてはいるものの、無答率も高くさらに努力を要する状況です。
関数	◇一次関数の変化の割合の意味を理解することについては、平均正答率は高くはないものの、国や県の平均正答率を超えており、おおむね満足できる状況です。 ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについては、国や県の平均正答率を超えてはいるものの、無答率も高くさらに努力を要する状況です。
データの活用	◇多数の観察や多数回の施行によって得られる確率の意味を理解することについては、8割以上の生徒が理解しており、おおむね満足できる状況です。 ◆データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについては、県や国の正答率を下回っていることから、さらに努力を要する状況です。

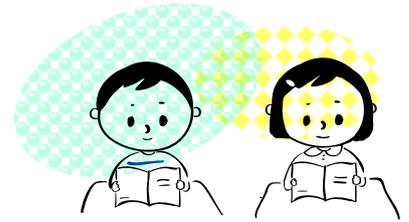
 小学校 理科

領域	成果が見られた内容（◇）と課題が見られた内容（◆）
エネルギー	◇問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録することについては、平均正答率が約8割に達しており、満足できる状況です。 ◆日光は直進することを理解することについては、国や県の平均正答率は超えているものの、さらに努力を要する状況です。
粒子	◇メスシリンダーという器具を理解することについては、平均正答率が約8割に達しており、満足できる状況です。 ◆自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもちその内容を記述することについては、国の平均正答率は超えているものの、さらに努力を要する状況です。
生命	◇問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことについては、平均正答率が9割を超え、十分満足できる状況です。 ◆観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことについては、国や県の平均正答率を下回っており、さらに努力を要する状況です。
地球	◇観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことについては8割を超える児童が理解しており、満足できる状況です。 ◆観察などで得た結果を、結果からいえることの観点から分析して、解釈し、自分の考えをもつことについては、国や県の平均正答を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。

 中学校 理科

領域	成果が見られた内容（◇）と課題が見られた内容（◆）
エネルギー	◇モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画的することについては、平均正答率が8割を超えており、満足できる状況です。 ◆化学変化に関する知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を動かせるおおもとして必要なものを分析して解釈することについては、県や国の正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。
粒子	◇化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことについては、平均正答率が8割を超えており、満足できる状況です。 ◆化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を動かせるおおもとして必要なものを分析して解釈することについては、国や県の平均正答率を超えてはいるものの、さらに努力を要する状況です。
生命	◇節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと動きを分析して解釈することについては、平均正答率が約8割にせまり、おおむね満足できる状況です。 ◆未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈することについては、国や県の平均正答率を超えてはいるものの、さらに努力を要する状況です。
地球	◇過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善することについては、平均正答率が約7割にせまり、おおむね満足できる状況です。 ◆飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善することについては、国や県の正答率は上回ったものの、さらに努力を要する状況です。

質問紙調査の結果から



- 🕒 ○ 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じている小学生（児童）・中学生（生徒）が多いです。
- 🕒 ○ 「自分にはよいところがある」と感じている小学生（児童）・中学生（生徒）が多いです。
- 🕒 ○ 「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動によく取り組んでいる」と感じている小学生（児童）・中学生（生徒）が多いです。
- 🕒 ○ 「読書は好き」と答える小学生（児童）・中学生（生徒）が多いです。
- 🕒 ▲ 「国語や算数（数学）、理科の勉強を好き」と答えた小学生（児童）・中学生（生徒）は全国に比べて少ないです。

牛久市では、新学習指導要領が打ち出している「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」にいち早く取り組んできました。
「一人残らず質の高い学びを保障する」授業づくりをめざし、市内の小中学校全校で協働的な学習を展開しています。
今回の結果はそうした学習の成果が表れている結果と言えます。
今後は「今、学んでいることが生活や将来とどうつながっているか、どんな時に役立つ力なのか」等をさらに意識し、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの視点に立った授業づくりを進めていきます。